

【速報】 ついに花粉飛散開始！ 第三回花粉飛散傾向を発表
関東・東海・甲信・九州で続々と花粉シーズンに突入！
 ～花粉観測機『ポールンロボ』で1日10個以上の花粉を2日以上観測～

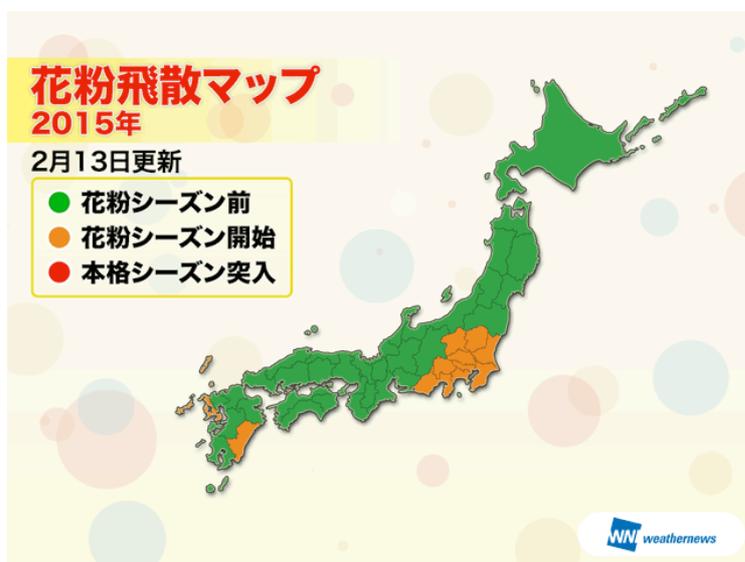
株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁）は、本日までに関東（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、群馬県、栃木県、茨城県）、静岡県、山梨県、長崎県、宮崎県の1都10県で基準を超える花粉飛散量が観測され、今後も飛散が徐々に増える見込みであることから、関東全域、東海、甲信、九州の一部で“花粉シーズン”に突入したことを発表しました。花粉シーズンインの時期は、昨年と比べて関東地方では18日、山梨県では13日、宮崎県では11日遅くなり、長崎県と静岡県では4日早まりました。ウェザーニューズでは、全国1,000カ所に花粉観測量に応じて目の色が変わる独自の花粉観測機『ポールンロボ』の設置を進めて花粉の観測をしています。2月12日は関東、静岡県内、山梨県内の3割以上、長崎県や宮崎県内の5割以上の観測地点において、花粉飛散量が花粉に敏感な人に症状が出始めるレベル(10個)に達しました。『ポールンロボ』で観測された花粉情報は、スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」やインターネットサイト「ウェザーニューズ」の『花粉Ch.』からご覧いただけます。また、ウェザーニューズは、スマホアプリの利用者を対象に一人ひとりに合わせた当日おすすめの対策方法や飛散予想を毎朝お知らせし、花粉症にお悩みの方をサポートしていきます。

『花粉Ch.』はこちらから

スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」をダウンロード後、『花粉Ch.』にアクセス	スマホ向けwebサイト「ウェザーニューズ」 http://weathernews.jp/s/pollen/	インターネットサイト「ウェザーニューズ」 http://weathernews.jp/pollen/
--	--	---

◆いよいよ花粉シーズンへ突入！

今日までに、花粉観測機『ポールンロボ』によって、関東（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、群馬県、栃木県、茨城県）、山梨県、静岡県、長崎県、宮崎県で基準を超える花粉飛散量が観測されました。今後も飛散が徐々に増える見込みであることから、“花粉シーズン”に突入したことを発表しました。ウェザーニューズは、各都道府県の3割の『ポールンロボ』が、花粉を10個以上観測した日が2日以上あった場合に飛散開始と定義しています。関東や山梨県では、2日以上という条件を満たしていませんが、12日に花粉を10個以上観測しており、今日は夕方にかけて更に飛散量が増える見込みで、週末にかけても十分に飛散する可能性が高いため、本日“花粉シーズン”に突入したことを発表しました。



スギ花粉の雄花は暖くなると花を開いて花粉を飛ばし始めます。1月中旬以降は寒さが緩む日も出てきまし

たが、飛散シーズンインには至りませんでした。その後、2月初めは再び真冬の寒さとなりましたが、12～13日は寒さが緩み関東全域、東海、甲信、九州の一部で花粉シーズンインとなりました。

～花粉観測機「ポールンロボ」の観測結果～

東京都

観測場所	大田区	中野区	青梅市	狛江市	八王子市
12日（木）	18個	12個	14個	14個	12個
13日（金） 12時まで	4個	3個	15個	13個	9個

神奈川県

観測場所	横浜市	茅ヶ崎市	川崎市	厚木市	葉山町
12日（木）	10個	25個	14個	17個	10個
13日（金） 12時まで	3個	1個	7個	8個	3個

埼玉県

観測場所	さいたま市	狭山市	熊谷市	富士見市	久喜市
10日（火）	7個	11個	14個	11個	10個
13日（金） 12時まで	17個	18個	16個	15個	7個

千葉県

観測場所	千葉市	市川市	市原市	大網白里市	館山市
12日（木）	10個	18個	14個	21個	16個
13日（金） 12時まで	2個	13個	3個	7個	1個

静岡県

観測場所	静岡市駿河区	御殿場市	御前崎市	伊豆の国市	三島市
10日（火）	8個	7個	22個	25個	6個
12日（木）	13個	10個	11個	26個	13個

長崎県

観測場所	長崎市	諫早市	大村市	壱岐市
9日（月）	15個	4個	8個	46個
12日（木）	17個	1個	1個	25個

宮崎県

観測場所	宮崎市1	宮崎市2	延岡市	高鍋町	えびの市
9日（月）	21個	10個	6個	22個	38個
12日（木）	17個	10個	5個	28個	3個

◆ 花粉の飛散開始予想

～2月中旬は西～東日本の太平洋側で続々花粉シーズンインと予想～

2月中旬は、西日本を中心に春の気配を感じられる程暖かい日や、風が強まる日もあるため、西～東日本の太平洋側では続々と花粉シーズンに突入する予想です。2月下旬もまだ冬の寒さになる日が多くなりますが、冬型の気圧配置が緩んで寒さが和らぐ日もあり、そのタイミングで山陰など西日本の日本海側では花粉シーズンに突入する見込みです。

平年（2008～2014年）と比べると、東北や北陸では3～7日程度遅く、その他のエリアでは平年並のシーズンインとなる予想です。

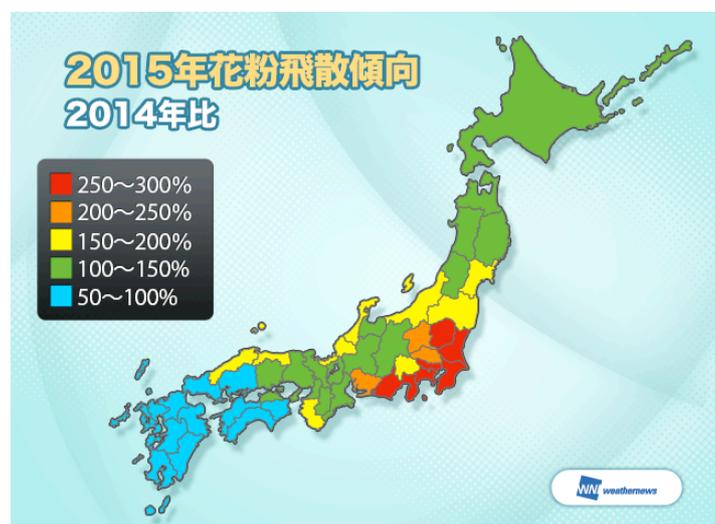
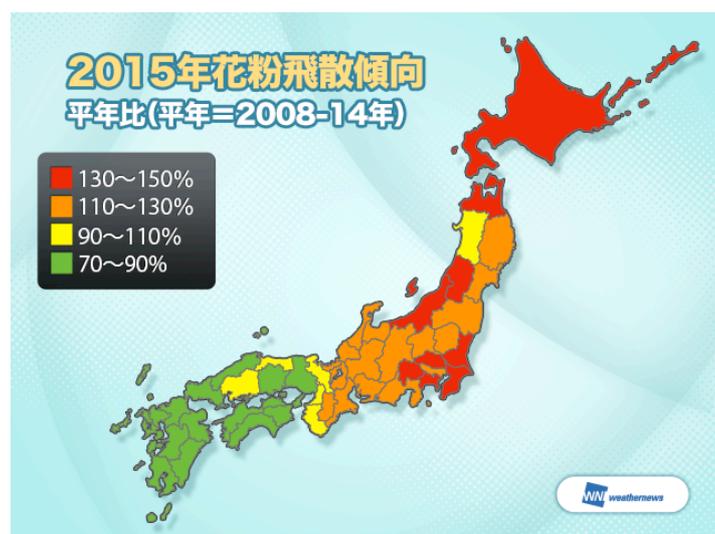
花粉シーズンに入った後、1週間から10日くらいで本格的な飛散シーズンに突入し、九州では3月上旬、関東から中四国の各地では3月中旬にスギ花粉の飛散ピークを迎える予想です。また、スギ花粉の飛散量がピークを過ぎた後は、桜の花が咲く頃にヒノキ花粉の飛散量が増え、西～東日本では4月上旬～中旬にヒノキの花粉飛散量がピークとなる見通しです。



◆ 花粉の飛散量、関東は昨年の2～3倍に増える見込み

2015年のスギ・ヒノキ花粉シーズンの花粉飛散量は、北～東日本ほど多く、東北や関東、中部では平年（2008～2014年平均）の110～150%と多くの花粉が飛散する予想です。近畿では平年と同程度～130%となる見込みです。一方、その他の西日本の飛散量は平年より少ない所が多く、中四国では平年の80～90%程度、九州では平年の70～90%程度となる見通しです。

また、昨シーズンと比べると、東北～近畿は飛散量が多く、特に関東を中心に2～3倍（200～300%）となる見通しです。一方、中四国以西では、四国（太平洋側）～九州を中心に昨夏の天候不順の影響が大きく、昨シーズンの70～90%となる地域が多いです。特に、高知県・徳島県・佐賀県・大分県・宮崎県・長崎県では昨年と比べて大幅に少なく50～60%程度となる見通しです。

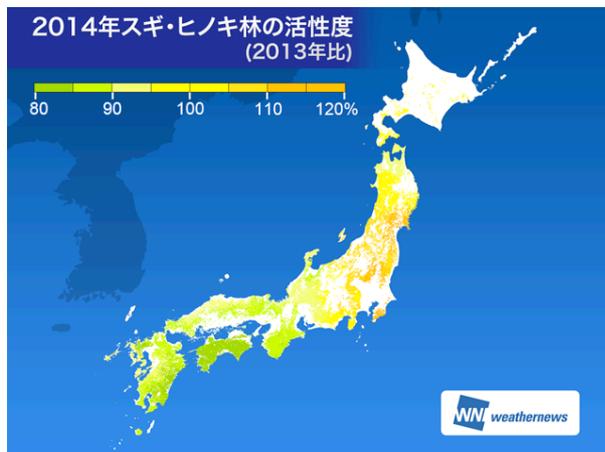


～ウェザーニューズの花粉飛散量予想～

ウェザーニューズでは、スギ・ヒノキ林の活性度、2014年夏の天候、年ごとの飛散量傾向（飛散量が多い表年・少ない裏年の関係）、『雄花リポート』を加味して、花粉の飛散量を予想しています。

○スギ・ヒノキ林の活性度

今回の花粉飛散予想では、スギ・ヒノキ林にどれだけ多くの雄花が成長しているのか、全国の森林における雄花の成長状況を、衛星データを利用して把握し、花粉飛散予測に反映しています。今回用いたのは、千葉大学環境リモートセンシング研究センターと共同研究してきた「光合成有効放射吸収率（植物が光合成に有効な波長の光を吸収する割合；FPAR）」から解析した、森林の活性度を示す指標です。この値が高いほど、植物は光合成を活発に行い、スギの雄花の量が多くなると考えられます。森林の活性度を解析した結果、関東、甲信越、東北、北海道では2013年夏よりもFPARが高いか同程度となり、北陸西部や東海（静岡県を除く）、西日本各地では、2013年夏よりもFPARが低くなりました。これらは、2015年の花粉飛散量が、西日本を中心に2014年より少なくなり、東～北日本では2014年並か多くなることを示唆しています。



○2014年夏の天候

一般的に、よく晴れて暑い夏ほど植物の光合成が盛んになり、雄花の生産量が多くなるという理由から、スギ・ヒノキ花粉の発生源となる雄花生産量は前年の夏の天候との相関が高いと言われています（北海道のシラカバ花粉も同様）。2014年の夏の天候は、北海道や関東を中心とする東日本（太平洋側）で、晴れて暑い日が多くなりましたが、西日本では中四国～九州を中心として曇りや雨の日が多く、平年よりも暑い日が少なくなりました。このため、北～東日本では、北海道や関東を中心に雄花の生育に適した夏となり、西日本では特に九州など西のエリアほど雄花の生育に不向きな夏となりました。

○年ごとの飛散量傾向

花粉が多く飛散した翌年は飛散量が少なくなったり（裏年）、少ない年の翌年は多くなったり（表年）と、花粉の飛散量は交互に増減する傾向があります。2015年の花粉シーズンは、東北～中国、四国（瀬戸内側）では、“表年”となり、前年よりも飛散量が多くなる傾向です。また、北海道や九州、四国（太平洋側）では2015年春は“裏年”となり、前年よりも飛散量が少なくなる傾向と言えますが、近年は特に九州や北海道では“表年”・“裏年”という飛散量の増減がやや不明瞭になる傾向があり、東日本と比べると、飛散量の増減に対しては夏の天候の影響が大きいと考えられます。

○雄花リポート

ウェザーニューズには、ウェザーリポーターと呼ばれる全国800万人の会員（2月現在）から、スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」を通して、天気や植物などに関する様々なリポートが1日に2～3万通寄せられます。今回の花粉飛散予想では、ウェザーリポーターと花粉の発生源となるスギ雄花を調査した『雄花リポート』（11月8日～16日実施）を活用しています。『雄花リポート』に

静岡県浜松市天竜区



去年より多い感じ

熊本県水俣市



個々を見ると、花数が少なく寂しい感じ。去年の半分くらいじゃないでしょうか。先の18号、19号台風の際、かなり雄花が落下していました。

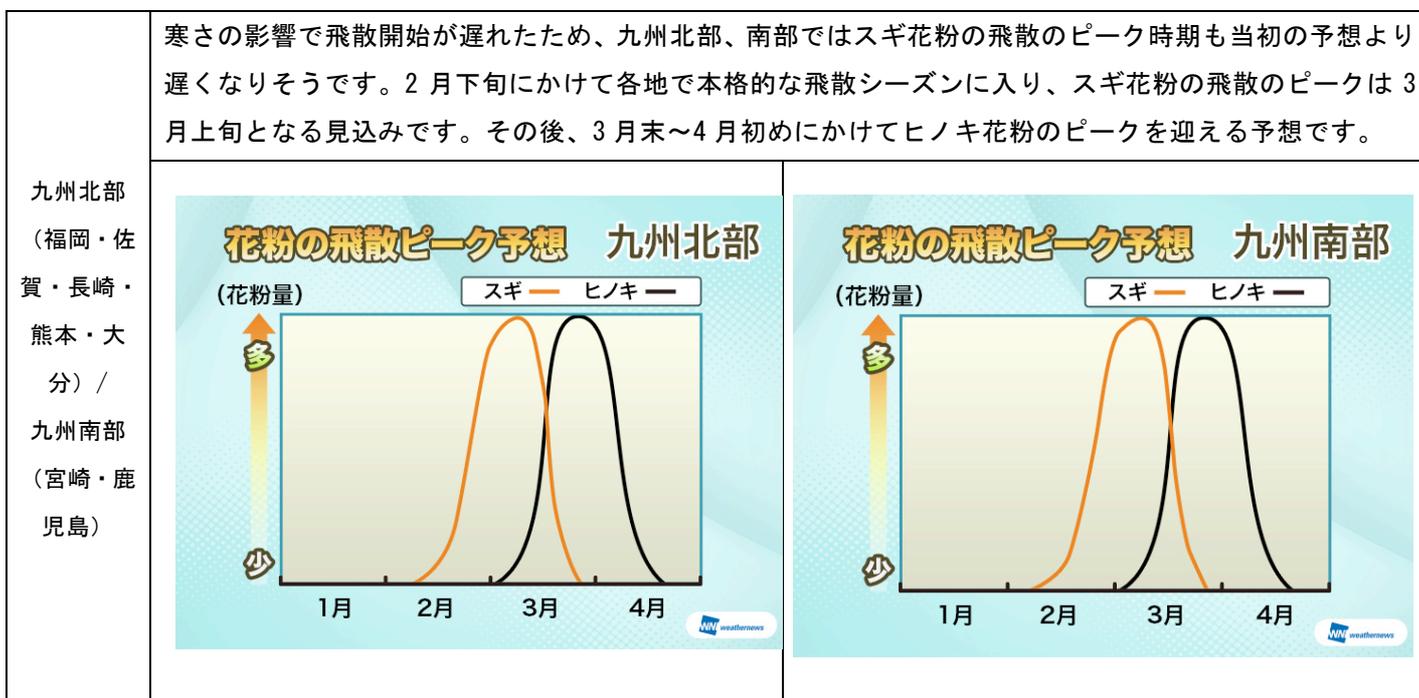
よると、北～東日本、近畿を中心に雄花の量は「昨年と同じくらい」「昨年より多い」という報告が多く、九州では「昨年と同じくらい」「昨年より少ない」という報告が多くなりました。

これらを総合的に解析した結果、2015年の花粉シーズンは、関東を中心とする東日本（太平洋側）で昨年よりかなり多く、九州を中心に昨年よりも少ない飛散量となる見通しとなっています。これまでに全国のウェザーリポーターから、症状を和らげるには、花粉を体内に取り込まないようにする対策が最も有効だというコメントが数多く届きました。

◆エリアごとの花粉飛散傾向

※九州を除くエリアでは、前回発表から飛散ピーク時期に大きな見解変化はありませんので、第二回花粉飛散傾向をご覧ください。

<http://weathernews.com/ja/nc/press/2014/141127.html>



◆都道府県ごとの花粉飛散傾向

エリア	都道府県	花粉飛散量 (昨年比：%)	花粉飛散量 (平年比：%)	花粉シーズン イン予想	花粉シーズン アウト予想
北海道	北海道	100%	140%	4月下旬	6月中旬
東北	青森県	110%	140%	3月中旬	5月中旬
	岩手県	135%	120%	3月上旬	5月中旬
	秋田県	115%	105%	3月中旬	5月中旬
	宮城県	190%	110%	3月上旬	5月中旬
	山形県	120%	140%	3月上旬	5月中旬
	福島県	165%	125%	3月上旬	5月中旬
関東	茨城県	285%	145%	2月13日	5月上旬
	栃木県	270%	120%	2月13日	5月上旬
	群馬県	210%	125%	2月13日	5月上旬
	埼玉県	240%	140%	2月13日	5月上旬
	千葉県	270%	135%	2月13日	5月上旬
	東京都	295%	115%	2月13日	5月上旬
	神奈川県	290%	140%	2月13日	5月上旬
中部	山梨県	180%	145%	2月13日	5月上旬
	長野県	135%	125%	2月25日頃	5月上旬
	新潟県	155%	135%	3月1日頃	5月上旬
	富山県	140%	125%	3月1日頃	5月上旬
	石川県	195%	110%	3月1日頃	5月上旬
	福井県	180%	120%	2月25日頃	5月上旬
	静岡県	255%	125%	2月12日	5月上旬
	愛知県	255%	110%	2月15日頃	5月上旬
	岐阜県	145%	110%	2月21日頃	5月上旬
	三重県	120%	120%	2月15日頃	5月上旬
近畿	滋賀県	105%	125%	2月21日頃	5月上旬
	京都府	145%	100%	2月21日頃	5月上旬
	大阪府	140%	105%	2月18日頃	5月上旬
	兵庫県	145%	80%	2月18日頃	5月上旬
	奈良県	145%	120%	2月18日頃	5月上旬
	和歌山県	165%	100%	2月15日頃	5月上旬
中国 四国	岡山県	105%	85%	2月15日頃	5月上旬
	広島県	80%	90%	2月15日頃	5月上旬
	鳥取県	195%	90%	2月21日頃	5月上旬
	島根県	195%	85%	2月21日頃	5月上旬
	山口県	75%	85%	2月15日頃	5月上旬
	徳島県	50%	85%	2月15日頃	5月上旬
	香川県	115%	85%	2月15日頃	5月上旬
	愛媛県	75%	85%	2月15日頃	5月上旬
	高知県	50%	85%	2月15日頃	5月上旬
九州	福岡県	70%	85%	2月15日頃	4月下旬

	佐賀県	55%	85%	2月15日頃	4月下旬
	長崎県	60%	85%	2月12日	4月下旬
	大分県	55%	85%	2月14日頃	4月下旬
	熊本県	75%	85%	2月14日頃	4月下旬
	宮崎県	60%	85%	2月12日	4月下旬
	鹿児島県	90%	75%	2月14日頃	4月下旬
	全国	150%	110%	-	-

※平年値：2008年～2014年の7年平均飛散量

※飛散開始予想日は各都道府県に設置している花粉観測機「ポーレンロボ」のうち、3割以上が1日10個以上を観測する日(2日間以上)を基準としています。